

普及活動情勢報告（平成 30 年 12 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

花の魅力を学習 ～地元小学校で花育授業を開催～



部会員がアドバイス

11 月 27 日、J A 土佐れいほく花卉部会は、土佐町小学校で 3 年生 25 人を対象に花育授業を開催しました。

授業では、部会員が栽培したユリやトルコギキョウ等を紹介した後、その花材を利用してフラワーアレンジメントを行いました。

普及所は、開催に向けた調整や当日の授業を支援しました。

部会員からは「昨年より低学年が対象で心配したが、花の魅力を伝えられたのでは」と小学生の楽しそうな姿を見て喜んでいました。

普及所は、今後も部会活動の一環として、児童や生徒に対して地域農業や花の魅力を紹介する花育活動に取り組んでいきます。

効果的なコミュニケーションを取るために ～担い手研修会の開催～



真剣に聴く参加者

11 月 29 日、土佐町保健福祉センター「あじさいホール」で、嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会の研修会を開催し、指導農業士、農業法人、高等学校や町村職員など 23 人が参加しました。

今回の研修会は、「色々な特徴を持った生徒が将来、嶺北地域の担い手となる。担い手を受け入れる農業者の理解を深めて欲しい」と嶺北高校の教諭の話を受けて普及所が企画しました。高知大学教育研究部の是永教授を講師に迎え、「雇用者と雇用される側との効果的なコミュニケーションのとり方」について講演していただきました。

参加者からは、「考えさせられることがたくさんあった」「大いに勉強になった」と大変好評でした。

普及所は、今後も地域の担い手確保への支援を行っていきます。

地域を守る決め手はやはり集落営農 ～土佐町集落営農視察研修～



青ネギの生育状況に興味津々

11 月 30 日に土佐町主催の集落営農視察研修が開催され、農家、関係機関 17 人が香美市香北町の「菰生米研究会」と「(農)ファーム西永野」で先進事例を研修しました。普及所は、研修先の選定や研修計画の策定を支援しました。

参加者は「菰生米生産組合」では、ブランド米を生産するためにも、集落営農で農地を守っていくことが重要であることを学びました。また、「(農)ファーム西永野」では、稼ぐ取組（青ネギ生産）を視察し、集落営農組織の目指すべき方向性を考えることができました。

普及所は、引き続き集落営農の組織化と活動のステップアップを支援します。

なくそう病害 ～米ナス部会反省会～



病害対策を紹介

12月1日にJA土佐れいほく園芸部米ナス部会は反省会を開催し、部会員8人が参加しました。普及所からは、今年の気象概要と病害の発生や夏場の高温によって発生が予想される病害対策を紹介しました。

参加者からは、土壌還元消毒で半身萎凋病の発病株が少なくなった経験談が話されました。

普及所は、生産の安定に向けた情報発信をしていきます。

伊勢川の山の幸でおもてなし ～伊勢川‘大国鍋’&チョロギ収穫体験～



組合員に教わりながら
チョロギを収穫する参加者

12月3日、土佐町伊勢川集落で集落営農組織「伊勢川営農組合」による「伊勢川‘大国鍋’&チョロギ収穫体験」が開催されました。組合員19人が運営にあたり、土佐町内外から20人が参加しました。

営農組合では地域の特産品を目指して、形が特徴的なチョロギを栽培しています。参加者はチョロギの収穫や正月飾りづくりを体験し、伊勢川の山の幸をふんだんに使った大国鍋や田舎料理ミニバイキングによる昼食を楽しんでいました。

組合長は「イベントは大変だが伊勢川のファンを増やすため来年もやりたい。チョロギの栽培も改良していきたい」と意欲を見せていました。

普及所はイベント全体の運営を支援し、今後の活動につなげるためアンケート調査を行いました。

今後も普及所は、収穫体験の反省会や営農組合総会など組織活動を支援していきます。

あなたの集落は大丈夫？ ～土佐町集落営農研修会～



行政職員とは思えない演技で
聴衆を魅了した寸劇

12月10日、土佐町あじさいホールにて土佐町集落営農研修会が開催され、農家7人、関係機関5人が参加しました。

最初に土佐町と普及所職員による、迫真の演技が光る集落営農についての寸劇を行いました。

その後は四万十市西土佐の（農）四万十川営農組合の武内幸男組合長と組合員（普及員）に講演してもらいました。西土佐は土佐町と同じく山間地ですが、法人化して農地を集積し、集落の農地の担い手として野菜栽培などに取り組んでいます。

参加者からは、「個人と組合の機械はどのように分けて活用方法したらよいか」等の質問がありました。

今後も普及所は、関係機関と連携して、集落営農の意識啓発を行い、集落営農組織化を推進していきます。

生産量10%増をめざして Let's go ～シシトウ部会反省会開催～



普及員の話に集中する参加者

12月10日、JA土佐れいほく園芸部シシトウ部会は本山町で反省会を開催し、部会員15人が参加しました。

普及所からは、生産量10%増をめざし、夏期の高温対策、青枯病防除について事例を交えて紹介しました。また、生産者数・面積の推移を示し、新規栽培者確保のために、部会員からの積極的な声掛けを呼び掛けました。

参加者からは、「気温が高くなっていく中、灌水量は見直す必要がある」「新規栽培者の定着のために、関係機関、篤農家が協力して綿密な支援を行って欲しい」との声が聞かれました。

今後、普及所は部会員の収量向上に向けて、土壌診断に基づいた基肥施用など、次作の作付けに向けて指導していきます。

甘長トウガラシ生産者と個別面談で次年度の改善計画を協議 ～今年の課題を克服するぞ！～



対策を全員で協議中

12月12～14日、甘長トウガラシ生産者4人に対して、JA1人、普及所3人が土佐町、大豊町で個別面談を実施し、次作にむけた改善計画を話し合いました。

面談では「病虫害防除が遅れた」「薬剤を散布しても十分な効果が得られなかった」など、生産者から本作の課題を聞き取り、対策を協議しました。その結果、「予防散布を定期的にする」、「天敵を導入する」など、次年度の取組内容を決定することができました。

生産者からは「来年は収量を向上させるため、面談で検討した対策を実践するので協力してほしい」という声が聞かれ、次作にむけた熱い想いが感じられました。

今後、普及所では生産者の所得を向上させるため、JAと指導内容を協議し、実践していきます。

嶺北地域の農業活性化に向けて協議 ～ 嶺北地域農林業振興連絡協議会第2回農業部会 ～



協議するメンバー

12月19日、普及所で嶺北地域農林業振興連絡協議会第2回農業部会を開催し、本山町、本山町農業公社、大豊町、土佐町、大川村、JA、普及所の構成メンバー14人が出席しました。

事務局である普及所から本年度事業の予算修正を提案し、承認されました。また、次年度の事業計画では、緊急・重要度の低い事業を見直し、地域の担い手確保や地元のぜんまいの消費拡大等農業振興に必要な新たな事業に取り組むことが決まりました。

普及所からは、4つのチーム会で検討してきた嶺北地域農業振興計画（案）を説明し、メンバーから再度意見を聞くことになりました。

普及所は、関係機関が更に連携し、嶺北地域の農業が活性化されるよう支援していきます。

土壌病害対策の決め手になるか?! ～土壌還元消毒実証～



土壌還元電位計の設置

米ナスの雨よけ栽培では、連作によって半身萎凋病の発生が問題になっています。そこで、平成 29 年から栽培終了後に土佐町で土壌還元消毒を実証しています。

12 月 4 日、普及所と実証農家 5 人が協力して土壌還元消毒を行いました。平成 29 年には抵抗性台木の高接ぎ苗と併せて実証したところ、半身萎凋病の発生が軽減されました。今年度は有機物投入後、支柱周辺の土壌を除き、ポリ被覆時の移動がしやすいように工夫する等作業の改善を進めることができました。

米ナスの他、ピーマンでも実施予定で、処理期間中の地温や病害の発生程度、作業工程等を調査し、有効で効率的な土壌還元消毒方法を普及していきます。